

## 小幡篤次郎と中津市学校

中津市長 奥塚 正典

中津市の図書館の名前をご存じですか。「中津市立小幡記念図書館」です。福澤諭吉の「学問のすゝめ」初版本の共著者、小幡篤次郎がその名の由来です。明治の英学者・教育者で、慶應義塾大学の第3代塾長です。遺言により、土地、生家に加え、蔵書の半分を中津に寄付し、中津の図書館が開設されました。残りの半分は、慶應義塾大学に寄付したと言います。

そのひ孫にあたる方が、昨年御夫妻で、中津を初めて訪ねて見えました。福澤旧邸、現歴史民俗資料館、図書館などを見て、曾祖父の業績と中津市民の篤次郎に対する深い思いに涙が止まらなかったという嬉しいお手紙をいただきました。

先日、慶應義塾大学を訪ねました。今年は、明治維新 150 年。多くの中津出身の偉人が日本の近代化に大活躍したことを改めて誇らしく思います。明治 4 年、英学校「中津市学校」は、ふるさとを思う福澤の進言により旧藩主 奥平 昌邁おくだいらまさゆきの出資で開校。その初代校長が小幡篤次郎です。実は「学問のすゝめ」は中津市学校の生徒に向けて書かれたものです。両先生が注いだ中津への愛情と人材育成の力は中津の根底に脈々と流れていると信じます。先人が力を入れた教育への思いを我々がしっかりと継いでいきたいと考えます。

現歴史民俗資料館の場所が篤次郎生誕の地ですが、建物は国登録文化財のため保存し、後利用を考えなければなりません。耐震構造になっていませんので国の事業を活用して改修し、「学びたい教育のまち中津」の一拠点として、小中高校生も大人も市民の皆様が活用できるよう知恵を絞ります。



中津市歴史民俗資料館

中津の先人たちは昔も今も変わらず中津に向けて学びの光を放っています。小幡篤次郎ゆかりの地にあるこの建物を慶應義塾大学とも連携し大いに活用していきます。学びの場ですから、『新中津市学校』とでも銘打って生まれ変えさせるのは、どうでしょうか。